

## 改訂第2版『集中講義 生化学』正誤表

改訂第2版『集中講義 生化学』(2021年2月10日 第2版第3刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。また、刊行後に新たに分類された酵素について、ここに変更・追記いたします。

2023年10月19日  
(メジカルビュー社編集部)

頁	該当箇所	誤	正
186	左の欄外	1911年に日本の農学者である鈴木梅太郎が抗脚気因子であるオリザニンとして発見するが、1912年フックがビタミン B <sub>1</sub> として発表し、ノーベル賞を受賞した。	1911年に日本の農学者である鈴木梅太郎が抗脚気因子であるオリザニンとして発表するが、1912年にフックがビタミンとして発表し、 <b>ビタミンという名称が生まれた。1929年にホプキンスとエイクマンがビタミンの発見でノーベル賞を受賞した。</b>

### <追記>

頁	該当箇所	旧	新
168	模範解答 1行目	……反応の種類により、EC1群からEC6群までの6種類に分類され、	……反応の種類により、EC1群からEC7群までの7種類に分類され、
168	模範解答 最終行に追加		・2018年に国際生化学分子生物学連合によってトランスロカーゼ(translocase)[日本語では輸送酵素]と命名された <b>EC7群が追加された</b> 。EC7群には生体膜を超えてイオンや分子の局在を移動させる酵素が分類されている。これまでEC1群やEC3群に分類されていた酵素がEC7群に移されている。
169	本文1行目	<b>■酵素の反応形式</b> ・6群に分類された酵素の反応形式を表1に示す。	<b>■酵素の反応形式</b> ・7群に分類された酵素のうち、EC6群までの酵素の反応形式を表1に示す。
169	本文の最終行に追加		・ <b>EC7群の酵素</b> :これまでEC1群に分類されていた電子伝達系の複合体、例えば、シトクロム c オキシダーゼ(旧 EC1.9.3.1)はミトコンドリア内膜を超えてプロトンを輸送するので、EC7.1.1.9に変更された。また、EC3群だったATPaseはATPの加水分解反応が主要な機能ではなく、ATPを使って分子を輸送させることが重要な機能であるため、EC7群に分類されることになった(例: Na <sup>+</sup> /K <sup>+</sup> -ATPase(旧 EC3.6.3.9)はEC7.2.2.13に変更)。

改訂2版『集中講義 生化学』正誤表

改訂2版『集中講義 生化学』(2017年4月1日第2版第1刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

2019年1月30日  
(メジカルビュー社編集部)

頁	該当箇所	誤	正
50	図2 一番上の図		 <p>赤いRNA分子の「テロメアDNA」が「<b>テロメラーゼRNA</b>」となる。</p>
66	本文最終行	…セリン, <b>プロリン</b> , アルギニンは6通りの	…セリン, <b>ロイシン</b> , アルギニンは6通りの
69	図2 Step1 右下	A部位に入った <b>アミノアミル</b> tRNA	A部位に入った <b>アミノアシル</b> tRNA
196	本文下欄外	p.199 QUESTION 正解	p.203 QUESTION 正解 (p.204へ移動)、p.200 にある正解が入る。
197	表1	鉄(Fe) (Feイオン)の列にある ドーパミンβヒドロキシラーゼ を <b>銅(Cu)</b> の列へ移動	
200	本文下欄外	p.195 QUESTION 正解	現在ある正解はp.196 へ、p.204 にある正解が入る
204	本文下欄外	p.203 QUESTION 正解	p.199 QUESTION 正解 (p.200へ移動)、p.196にある正解が入る。
212	模範解答2行目	…ピルビン酸は乳酸となり2分子の <b>乳酸</b> 、2分子のATPとなる。	…ピルビン酸は <b>乳酸にまで代謝され結果的にグルコースは2分子の乳酸と2分子のATPになる。</b>
226	図1 ここがPOINT	マトリックス側に汲みあげられたプロトン(H <sup>+</sup> )はATPシンターゼによって <b>内腔側</b> に戻る。そのときにATPが生じる。	<b>膜間腔側</b> に汲みあげられたプロトン(H <sup>+</sup> )はATPシンターゼによって <b>マトリックス側</b> に戻る。そのときにATPが生じる。
233	図5 ここがPOINT 上から3行目	維持に働く <b>筋肉</b> では	維持に働く。筋肉では
236	下から14行目	…これらは共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)により、	… <b>これらの共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)は</b>
237	図5 ここがPOINT 下から2行目	逆の <b>脱リン酸化</b> はグルカゴンに	逆の <b>リン酸化</b> はグルカゴンに(脱をトル)
265	模範解答3行目	<b>高カロリー食</b> を食べ続けると、…	<b>過剰に糖分を摂取すると、…</b>
268	8行目	コレステロールは胆汁酸、ステロイドホルモン、 <b>ビタミンD</b> に変換される。	コレステロールは胆汁酸、ステロイドホルモンに変換される。 <b>(ビタミンDをトル)</b>
269	QUESTION (2)	b <b>MG-CoA</b> リアーゼ	b <b>HMG-CoA</b> リアーゼ
288	左の欄外 本文1 行目	ファネシルニリン酸は…	<b>ファルネシル</b> ニリン酸は…
311	下から8行目	…皮膚表面の <b>角質細胞質</b> の成分で、…	…皮膚表面の <b>角質細胞間質</b> の成分で、…
378	左の欄外「代表的 な調節」 ①解糖系 4行目	AMPで <b>阻害</b> され、クエン酸で <b>活性化</b> される。	AMPで <b>活性化</b> され、クエン酸で <b>阻害</b> される。